

設立 平成24年 5月15日
開塾 平成24年 9月 8日
発行 令和 6年 1月13日
(128号)

中之島ニュース

[事務局] 〒567-0861
茨木市東奈良2-7-10
人間学塾・中之島
古田修平

「感化力」

上甲 晃 先生

(十二月度特別講義より)



■能力がないという才能

先日栗山英樹監督をお呼びし、リーダーセミナーをいたしました。栗山さんは野球エリートではありません。ドラフトでは選ばれず、自分で志願しテスト生からプロ野球に入った。現役時代も輝かしい成績はほとんどない。才能で言えば野球エリートではないでしょうが、人間としてはエリートです。人間エリートとは、苦労した分だけ人間としての値打ちを高めている人のこと。彼の言葉でも好きな言葉は「能力がないという才能」。彼は自分の「能力がないという才能」を発揮してきた、ということです。能力がないのはダメ人間ではなく、生きていく上で力になる。これはすべての人に才能があるという、勇気を与えてくれる言葉だと思います。

人生すべては考え方ひとつであり、秀でた能力の有無ではなく、どういう考え方をもち、ことに臨むかで違いが出る。考え方が結果を作るのです。能力を持ち自信があると傲慢になることもあるでしょうが、能力がない人間は謙虚になる。また、人の能力を活かそうとすることができ。実社会では「能力がない才能」が活かしてくる。だからこそ、栗山さんはWBCにおいて選手たちのそれぞれの才能を最大限引き出すことができたのでしょう。

■人生に不可能はない

松下幸之助は常に「自分が経営者としてここまでするまで、やってこられた最大の理由は①学歴がなかった②体が弱かった③貧乏だった。その三つのお蔭だ」と言っていました。これもまた栗山氏の言われる

能力がない才能とも言えるのではないか。これらの弱みはコンプレックスとすれば弱みのままとするが、「お蔭」と受け取れば、人は傲慢になることもなく、素直になれる。お蔭と受け取ることで、その弱みに救われていくのです。そうした松下幸之助の生き様から、確信を持つて言えることは「人生にできない理由は何一つない」。人生に不可能はあり得ない、すべて考え方次第なのです。高齢者なら「歳をとったお蔭」がある。世間では歳とすることは悪いことのように言われるが、歳とらねば得られないものも絶対にある。誰から教わらなくても、自身が八〇年重ねてきた人生経験は宝物です。

人生の苦難、「難有り」を「有難い」に変えるのは生きる力です。自分の欠点・短所を含め、どんなことでも見方一つ変えることで受け止め方も変わってきます。

振り返れば私も教育の世界に四〇年関わってきました。松下政経塾へ出向を命じられたのは、松下電器に入って四〇歳のときです。政治に全く関心がないこと、政治の勉強などしていないこと等、自分がいかにその指導者に不向きであるか、できない理由を並べ立てました。それを聴いた幸之助は一言「そらええな」。今の政治が良ければ知っていることも値打ちがあるが、良くないのだから何も知らん素人がよい、とのことでした。これも「考え方」です。

そのとき幸之助は、知識も経験もなく構わないうが、ただ一つ重要なことは「熱心」かどうか。「熱心」の一点において、誰にも負けない努力をするならば、必ず道は開ける、と言ったのです。

その言葉は今日に至るまで自分にとっての大きな支えとなりました。その後五四歳六か月のときに本社復帰の命が出たものの、その十四年間はあまりにも熱心にやってきたがためにその社命に戸惑

いました。そうして社命ではなく自分の使命に従うことを選んだのでした。言わばパナソニックという豪華客船から乗組員は妻と二人きりの小さな伝馬船に乗り換えた。大きな人生の転機でした。

■教育力の原点

振り返ってしみじみ「人生は終わり良ければ全て良し」です。人生は終わりになるほど良くなる生き方にせねばならないと痛切に感じます。「あの頃は良かった」ではなく、いくつになっても「今が最高」でなければならぬ。人生ホップステップジャンプ、「ジャンプ」とは老後です。Old Be Ambitious! 年齢を重ねてきた値打ちを、自分のできる方法で世のため人のために献身的に努めるときに、人生は引き上げられていくのだと思います。

私は戦後教育の一期生、アメリカの占領下で教育を受けました。いまその我々が老人になっている。老人としての役割の果たし方が、今の世の中の課題となっているのではないか。戦後教育において①歴史教育の禁止②修身・道徳の禁止③神話の禁止が実施された。日本人として誇りを持たせない教育を強いられてきました。そんな私たち世代が洗脳されたことを自覚し、勉強をし直して、日本のすばらしさ、日本の心を取り戻し、残りの人生をかけて後に続く人たちに伝えていく責任がある。日本人の模範となつて後の時代に残していかねばと思うのです。

四十年の教育で行きついた結論は「感化力」です。教育力の原点は感化力であり、感化力の原点は自分の生き様です。その人を見たら自ずと見習いたく感ずるのは言葉ではなく、生き様に他ならない。言葉で教えるのではなく、自分が範を示してふるまうこと。それは誇り高い生き方であると同時に、後に続く人たちを感化する力となるのです。(抄録 中川千都子)

グループ討議 12月上甲晃先生

◆Aグループ

- ・能力がないという才能。
- ・感化力は生き様。

◆Bグループ

- ・真理は平凡の中にある。
- ・自分の持ち場で世の救いとなる志。

◆Cグループ

- ・能力がないという才能
- ・すべては考え方ひとつ。

◆Dグループ

- ・能力がないという才能。
- ・生き様をどう見せていくか。

◆Eグループ

- ・難有 ↓ ありがたい。
- ・能力がないという才能。

◆Fグループ

- ・能力がないという才能。
- ・真理は平凡の中にある。

◆Gグループ(リモート)

- ・難有は有難い。
- ・一つを励めばすべてが変わる。
- ・日本の救いとなる生き方。



番外レポート

大忘年会開催！

先月の人間学塾・中之島の終了後、有志による大忘年会が開催されました。おいしい鍋のもと、一年間の学びを振り返り、大いに盛り上がりました。

その後、有志による二次会へ。こちらでもおいしいおでんをあてに盛り上がりました。そして、なんと三次会カラオケ大会も開催されました。参加された方、お疲れさまでした。

有志の懇親会（忘年会）は適宜開催されています。お時間の許される方は、是非、皆様、ご参加ください。



お願いします……
こんな活動しています。
こんなこと載せてほしい。
こんなんやけど……どう……
寄稿・投稿 大募集中です……

寺田先生に導かれて 近藤宏枝

「初一念を貫く」

寺田一清先生と鍵山秀三郎先生とのご縁は深く、「人間学塾・中之島」では常任講師として毎年年頭に、貴重なご講話を拝聴出来る幸せに浴していました。それが平成二十七年一月をもって、鍵山先生のご登壇が叶わなくなりました。その後任として翌年からは、鍵山先生が最も信頼されているお一人である新宮運送代表取締役・木南一志先生が引き継いで下さっています。私は毎年この時期には、子供達の書道の大会と重なり、「中之島」では木南先生のご講話を拝聴出来ずにいて、ずっとご縁を念じ続けていました。

そして平成三十年八月に「実践人の家」研修大会でその機会が巡って参りました。ゆっくりと確かめる様に言葉を発せられるお姿に、真摯なお人柄が滲み出ていました。「誰かに責任を問うのではなく、皆で受け止めて心を寄せていく」災害が起こった時の重要な性根をまず教えて下さいました。そして木南先生は、薄紙を千枚重ねる様な生き方が理想であると話されました。この一番上の一枚を「初一念」と呼び、あとの九九九枚は自分の根っここととなると続けられました。初一念とは、決して忘れてはならない最初の決心の事なのです。この時私は、鍵山先生が最も信頼されている事を確信致しました。もう一つ驚くべき事は、木南先生からお葉書を頂いた方はお気付きの事と思いますが、鍵山先生のお葉書と、文字も構成も全てがそっくりなのです。

「学ぶ」とは「まねる」から始まると思いますが、鍵山先生の教えはしっかりと木南先生が引き継いで下さり、この「中之島」で私達を導き続けているのです。

読書感想文 募集

人間学塾・中之島では、毎年、読書感想文集を発刊しています。

詳細については、別途お知らせしますが、今期も是非、投稿をお願いします。

どんな本でも結構です。でも……どんな風に書いたら……昨年度も掲載しましたが、この言葉を！

仕事をする上での最大の秘訣は、思い切って着手するという事です。「とにかく手をつける」ということ、すなわち**即今着手**にありと言ってよいでしょう。

一語一会 五月九日

大切なことは、一度着手した仕事は**一気呵成**にやつのけるということです。と同時にいい意味での拙速主義と云ってよく、仕上げはまず八十点級というつもりで、とにかく一気に仕上げる事が大切です。

一語一会 五月十日

◆締め切り

二月十七日(土)

◆文字数

八百字以内 厳守

◆提出先

メールで編集部

原稿用紙等の場合は、事務局へ郵送かFAXでお願いします。



謹 賀 新 年

あけましておめでとろございます。
本年も何卒よろしく願ひします。
ともに学んで実践を！

人間学塾・中之島



祝 角高憲治様 褒章受章！

内閣府より令和5年秋の褒章の受章者が発表されました。長年にわたってその道一筋に打ち込んできた人に贈られる「黄綬褒章」を塾生の角高憲治さんが受章されました。おめでとろございます！



◆ ◆ ◆
演 講 師 横田 南嶺 管長
題 禅の教えに学ぶ
◆ ◆ ◆
【2月日程】
日 時 2月17日(土) 13時～17時
会 場 大阪大学中之島センター
6F セミナー室 E F
2月は第三土曜日です！

《人間学塾・中之島》次月日程

人間学塾・中之島

編集部メールアドレス

2012nakanoshima@gmail.com

読書感想文はこのアドレスへ！

本ニュースは塾生の皆様のためのものです。無断で転載・配布・SNS利用などはご遠慮ください！

人間学塾・中之島 編集部

編 集 後 記

新年あけましておめでとろございます。令和も六年となりました。本年も何卒、よろしく願ひいたします。

先月の上甲晃先生の気合い。本当にすごかったです。能力がないという才能。難有りが有難い。真理は平凡の中にある。やはり名言ばかりでした。日本の救いとなる生き方。一人ひとりがこの塾で学んで、日本のために生きていきたいと実感しています。角高憲治様が黄綬褒章を受賞されました。数々の実践が認められたかと思えます。塾生一同でお祝いを申し上げます。末筆となりましたが、今年、皆様に素敵なそしてすばらしい年でありますように！

編集長 西村俊幸